

古墳と埴輪
～群馬県との深い関わり～



太田市立太田中学校
1年A組 田島 弘翔

1, きっかけ

埴輪と古墳には昔から興味があり、群馬県には埴輪と古墳がたくさんあると学んだので、埴輪と古墳についてと、この2つの群馬県との関わりについて知りたいと思ったからです。また、群馬県の地名にもある馬についての群馬県との関わりについても調べてみたいと思ったからです。

2, 疑問

- ・群馬県の古墳と埴輪について
- ・群馬県から出土された埴輪の特徴について
- ・群馬県と馬の関わりについて

3, 調査結果

【1, 群馬の古墳と埴輪について】

4世紀から6世紀の古墳時代にかけての群馬県は人がとても多くいました。古墳時代の群馬県は環境がよく住みやすかったと言われています。人が多いためそれに比例して権力者（豪族）も多くいてその権力者が亡くなるたびに大きな古墳がつくられたため、群馬県にはたくさんの古墳が存在すると言われています。また古墳を作るには、莫大な費用や人材が必要になってきます。それだけではありません。古墳を作るには、測量や埴輪を焼く技術が必要になります。そのため権力者が人を雇い古墳を作らせていたと言われています。また、古墳づくりの技術者たちを集めていたことがわかります。



- 左 南東数百メートルのところに豪族の居館跡があり「三ツ寺」と呼ばれてる。保渡田古墳群はこの邸宅に住んでいた豪族の墓だと言われている。
- 右 古墳づくりは大変手間のかかるものだった。

(写真) 左 保渡田八幡塚古墳 右 墓石工事の様子を推定したイラスト
 【2, 群馬県から出土された埴輪の種類について】

埴輪大国の群馬県。そんな群馬県からは様々な埴輪も出土している。
 そして驚くことに国宝や国指定重要文化財の埴輪のうち40%が群馬県から
 出土されています。

【群馬から出土された埴輪の種類】

人物埴輪

- ・女子埴輪 (3)
- ・武人埴輪
- ・貴人埴輪 (1)
- ・農夫埴輪
- ・縦持ち人埴輪 (2)



(1)



(2)



(3)

動物埴輪

- ・馬形埴輪 (1)
- ・鳥形埴輪 (2)
- ・埴輪犬
- ・埴輪猪 (3)
- ・猪形埴輪
- ・犬形埴輪



(1)



(2)



(3)

他の種類の埴輪

- ・家形埴輪 (1)
- ・器財埴輪 (2)
- ・円筒埴輪 (3)



【時代や環境とともに変化を遂げた埴輪たち】

たくさんの埴輪が出土している群馬県。群馬県古墳総覧によると群馬県内では3世紀後半から7世紀にかけて古墳は実に13249基にのぼることが判明しました。

そのうち約2400基が現存する。それぞれの古墳やその周辺からは、様々な時代に作られた埴輪が多く出土されています。豊富な出土品を比較することで、時代や環境によって変化した大きさやデザインの違いがよく理解できます。

3世紀の弥生時代に登場したのが**円筒埴輪（右）**。お供物を入れる壺が、徐々に聖地である古墳を守る魔除けとして変化していったのです。



埴輪のなかでの登場はやさランキング **1位**
【弥生時代後期】

4世紀に入ると**家形埴輪（上）**が見られるようになりました。亡くなった後も埴輪の中で死者の魂が生き続けられるともいわれています。

同時期には、盾や甲冑、刀などをかたどった**器財埴輪（下）**が登場しました。死者や悪霊や災難などから守るとともに権力や財力を示したものとされています。



埴輪のなかでの登場はやさランキング **2位**
【4世紀古墳時代前期】

別の写真

左：器財埴輪 右：家形埴輪
左の**器財埴輪**は刀のような形をしています。
右の**家形埴輪**は地方豪族の住居構成を示しています。



5世紀に入ると巫女・武人などの**人物埴輪**や馬・猪・鳥などの**動物埴輪**といった精巧な造形が登場。葬式も様子や生活の様子を表していると言われています。

埴輪の中での登場はやさランキング**3位**
【古墳時代中期】



左の画像はぐんまちゃんに似ている馬形埴輪です。もしかしたらこの馬形埴輪をぐんまちゃんのモチーフにしたのかもしれませんが！？



群馬だけに馬の埴輪が多い

たくさんの埴輪が出土する群馬県。その中でも動物埴輪のうち90%が馬の埴輪である。これは動物の中でもとても馬を大切にしていたからだと思います。ですが他の動物埴輪は1割ほどしか作らないことに疑問を持ちました。なぜ馬の埴輪が多く作られたのか。また群馬県の人々にとっての馬の価値としての魅力が多く根付いているからだと思います。そんな群馬県から出土されている馬の埴輪について深く掘り下げてみます。

高林西原古墳群出土の埴輪人が乗る裸馬

この馬形埴輪は、実はとても珍しいものなのです。人物が乗ってる馬形埴輪は関東では7例と貴重です。全体的な表現は非常に簡略化されていますが、※**ゆぎ**を背負っているようです。でもこの埴輪、人が非常に小さいと思いませんか？それは馬が主役だからだと言われています。※**ゆぎ**とは矢を入れ背に負った細長い箱型の道具

年代 6世紀後半 高さ70.4センチ 出土場所 高林西原古墳群



飾り馬

おちょぼ口の癒し系とは裏腹にゴージャスな馬具をフル装備した馬の埴輪です。装飾は一部が朱塗りされていて、その華やかさが想像できます。

年代 5世紀後半 高さ82センチ 出土場所 太子塚古墳



馬形埴輪

こちらの馬形埴輪はすらりと伸びた細長い足が目を引く埴輪です。環状の轡（くつわ）が表現されています。面繫（おもがい）には菱形（ひしがた）の飾りがあります。胸繫（むながい）と尻繫（しりがい）は三角形の線刻で飾り、鈴がつけられています。

年代 6世紀中頃 高さ不明ですが県内有数の大きさ
出土場所 蛇塚古墳



ぐんまちゃん埴輪

馬の目は本来左右にありますが、この埴輪は顔の正面に作られています。この埴輪はもしかしたら馬をちゃんとみたことがない人が作ったものかもしれません。馬具なども表現されていますが作りは単純で、ユーモアな表情がぐんまちゃんに似ています。

年代 5世紀後半 高さ50、4センチ 出土場所 白藤V-4号墳



【3, 群馬県と馬の関わり】

県名に馬という文字が入っている群馬県。先程の【群馬だけに馬の埴輪が多い】では、群馬県から出土した馬の埴輪について説明しました。

今回は、群馬県との馬の親密な関係やここまでの関係までになった道のりを説明していきます。

また、当時の大和政権との深い結び付きについてもしらべていきたいです。そして、なぜ群馬県は昔たくさんの馬が生息していたのかも調べてみます。

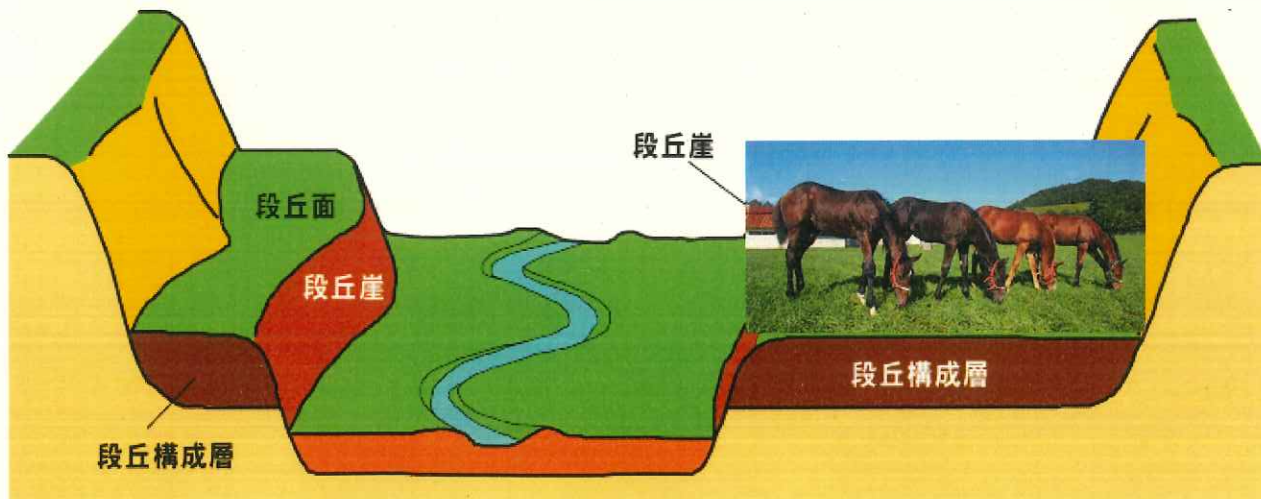
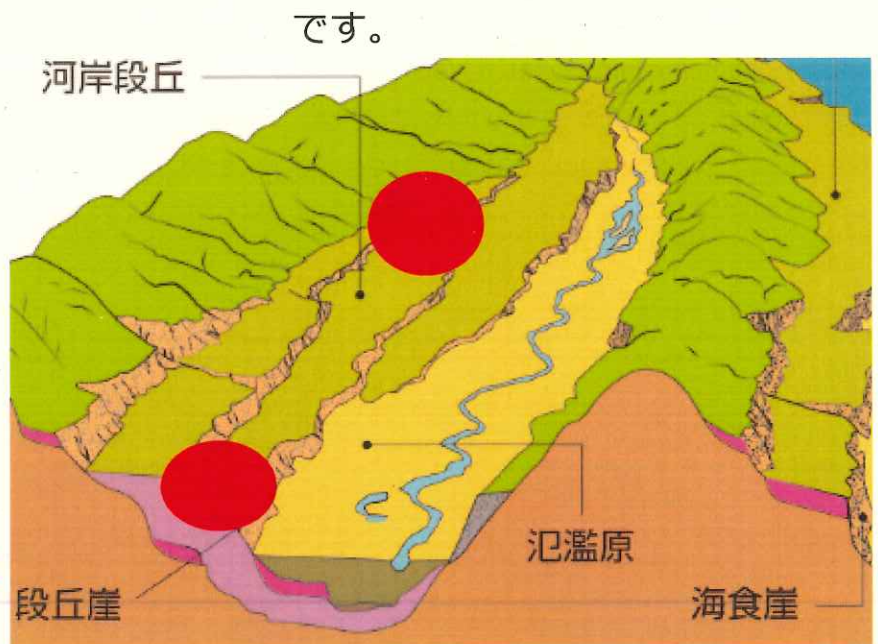
【なぜ群馬県には昔たくさん馬が生息していたのか】

古墳時代の群馬県には、たくさんの馬が生息していました。その理由として挙げられるものは、

- 1, 馬を生産するための良好な地形
- 2, 馬の生産技術をもった渡来人からの影響
- 3, 大和政権との強い結びつき

群馬県には河岸段丘と河成段丘という場所がたくさんあります。馬は家で飼うとすぐに逃げられてしまいます。ですが河岸段丘の場合は上は急すぎて登れず、下も急すぎて降りることができないので逃げる心配はなくなります。

赤い丸印があるとここに柵を置けば逃げられません。



【大和政権との強い結びつき】

当時の移動手段といえば歩きか船でした。歩きだと遠くに行くのにもとても時間がかかりました。船は便利な移動手段として使われましたが、船は天候によって航海が左右されるものです。そこで大和政権は「馬が一番よい移動手段」だと考えました。大和政権は良い馬を求めます。そして群馬県は良い馬が作れる。ということで大和政権との結びつきが強くなっていったといわれています。

4, 感想

群馬県は他県の人からすると印象がとても弱い県です。ですが、今回東国文化の自由研究をやってみて、群馬県の埴輪や古墳様々な素晴らしい魅力を現地において肌で体感することができました。この魅力は他県にも誇れる、群馬だからこそその魅力だと思います。こうやって群馬県の古墳や埴輪の歴史、大和政権との関わりを知ることができてとても良い機会になったと思います。

5, 参考文献

学芸員 深澤 淳さん

調べるHANI一図鑑 hani-zukan.jp/

東国文化副読本

古墳王国群馬の個性的な埴輪を一挙紹介 rakukatu.jp/gunma-haniwa-20210502

河岸段丘・洪積台地高校生地理をわかりやすく chiri-geography.com/class/229/

八幡塚古墳・かみつけの里博物館・群馬歴史博物館

ゆぎについて weblio.jp/content/ゆぎ

【おまけ】



夏休み中の特別企画として開催されていた「夏のれきはく古墳発見！」に妹と参加し、記念に缶バッチをいただきました。



研究の最後に家族と埴輪作りを体験しました。
ペン立てと埴輪を作りました。昔の人々の
気持ちを実感することができました。
昔の人々の技術は改めて素晴らしいと
思いました。